

第3回学校運営協議会報告（広尾中学校）

令和2年度第3回運営協議会が令和3年2月1日（月）19:00から広尾町コミュニティセンター大ホールで開催されました。

1. 委員委嘱等

教育委員会から令和3年1月1日から令和4年12月31日を任期とする12名の学校運営協議会委員が委嘱され、委員の互選により会長と副会長が選出されました。

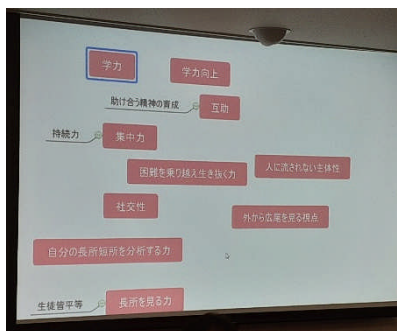
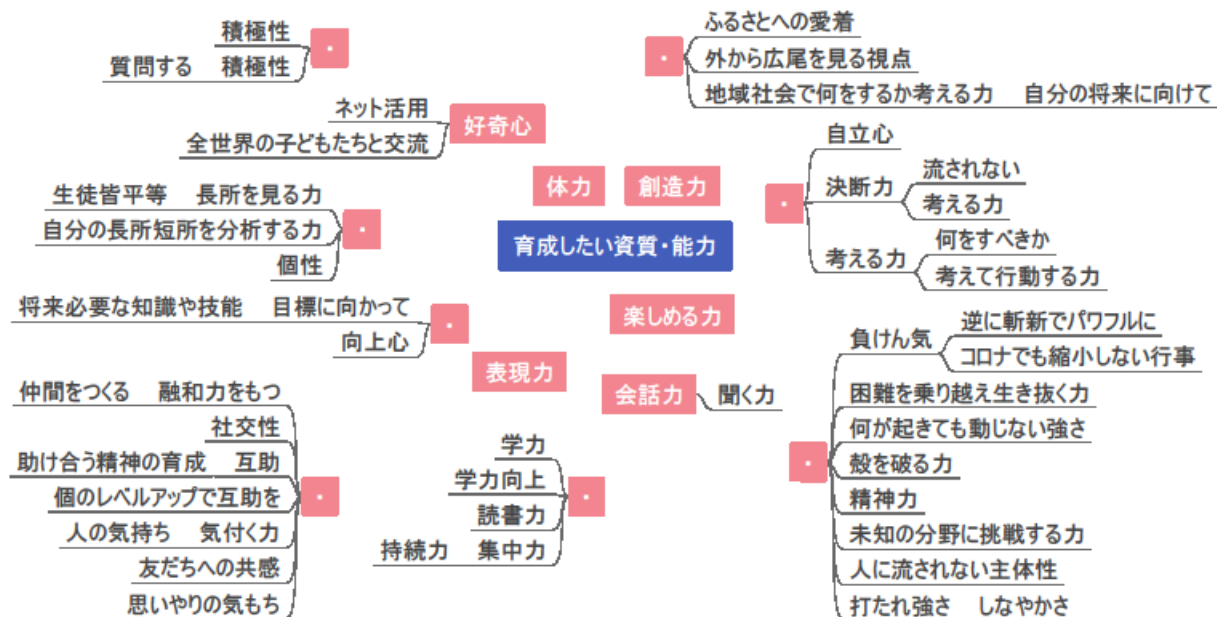
2. 学校関係者評価（自己評価の説明）

学校から教職員の自己評価が示されました。（次頁以降参照）これに対する各委員の評価を集約し、学校運営委員会としての学校関係者評価報告書を学校長に提出します。

3. 熟議「育成したい資質・能力」

熟議で出された意見等は、来年度の学校運営の基本方針に反映されることになります。

氏名	備考（第8条関係等）
秋 月 直 志	地域住民
鈴 木 孝 俊	地域住民
齊 藤 延 幸	地域住民
大 林 勝 則	地域住民【会長】
川 津 和 子	地域住民
小 島 政 裕	その他
堀 田 晃 三	保護者
松 山 孝 三	保護者
石 原 秀 樹	保護者
三 浦 弘 樹	保護者【副会長】
松 橋 達 美	校長
土 井 誠 人	教職員



学校運営協議会 評価（教職員）

1 知識・技能を身に付ける

内 容	実施状況	成 果	課 題
人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解する。（社会・公民）	・いじめや男女平等などの課題を身近なできごとと結び付けて意見交流するなど自発的な学習を進めた。	・ニュースに普段から触れている生徒も多く、男女平等などの課題では多くの班で意見交流が深まった。	・意見交流では意識の差や知識の差などの個人差が見られ、意欲を高める方策が更に必要だった。
地図帳の資料などを通して、北海道の位置や面積地形の特徴を理解する。（社会・地理）	・地図帳やプリントを活用し、北海道の特徴や冷涼な気候や地形について学習した。	・メモリーツリーを用いて自分たちの生活の経験から入り、互いに理解し合うことや見通しを持たせることができた。	・授業が同じことの繰り返しだったので生徒の活動や主体的に活動できる機会を作る。
身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。（理科第2分野）	・広尾川に生息する水生生物などを利用しながら地域の環境を調べ、学習した。	・班で協力しながら、水生生物の種類や数を調べ、地域の環境に対する知識や理解を深めることができた。	・地域の環境がなぜ結果のようになるのか、1人1人考えを深めることができなかった。
創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能。（音楽）	・コロナ禍の中、様々な制約はあったが、合唱コンクールに向けた学習ができた。	・声部ごとにパートに分かれ、授業ごとに自ら課題を見つけ、互いに協力して解決していこうとする姿勢を作ることが出来た。	・感染症対策を行いながらの表現活動にどのように対応していくか。
生活や社会、環境とのかかわりを踏まえて、技術の概念を理解すること。（技術）	・日常生活における技術分野との関わりを意識した学習を行った。	・情報に関する技術では教科書の内容だけでなく、最先端技術の現状を交えて学ぶことが出来た。 ・最先端のIT技術によって、お互いを結びつける方法を学ばせた。	・急速に進化し続けるIT技術と、教科書内容のギャップをどのように埋めていくか。
家庭生活は地域との相互のかかわりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者とのかかわり方について理解すること。（家庭）	・家庭の役割やユニバーサルデザイン等の考え方に関連させて学習した。	・幼児や高齢者など、様々な形の家庭における幅広い年齢との関わり方や協力関係の作り方、福祉のあり方など、広い観点で学習することができた。	・今年はコロナの影響で体験的な活動が少ない単位になってしまったので、高齢者の視覚体験や調べ学習等、生徒の能動的な活動が増える授業展開ができると良い。

2 思考力、判断力、表現力等を身に付ける

内 容	実施状況	成 果	課 題
互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。(国語)	・ 2月24日(水)実施予定		
攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。(保健体育)	・ 球技を中心に自分の課題、他者の課題に関心をもたせ、改善のために取り組むことができた。	・ ワークシートの記述から、自分の動作だけではなく、他者の動作から自分に生かすような記述が多く見られた。また運動中に助言し合う回数が増加した。	・ 運動量がなるべく減らずに、話し合い高め合う機会を増やす方法について、より考える必要がある。
日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。(英語)	・ Project2 友達をみんなに紹介しようの単元で、相手に質問し、得た情報をもとに紹介文を作成した。	・ 設けられた質問に加え、自分が知りたい情報を自分で作成し、質問すること、また質問して得た答えをもとに文法事項を使い紹介文を作成することができた。 ・ アクティビティの授業を通して、互いに会話することで協力し合うこと、互いの個性を学ぶ機会にできた。	・ 既習事項をもとに、文を作成することはもちろんだが、さらに発展した内容を表現できるよう、知識を伸ばしていけるように支援する。 ・ 授業に中で、生徒がもっと活動する時間を増やす。

3 意欲や態度、人間性を醸成する。

内 容	実施状況	成 果	課 題
数学を生活に生かそうとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。(数学)	・実際に数学が使われている例を挙げられる場面では上げている。また、考え方や途中式を大切にすることでよりよい解き方を生徒が考える工夫を行った。	・協働学習のなかで、多様な考えを受け止め、より丁寧に説明することで、よりよい解決方法を考えることを生徒たち同士で行えるようになった。	・既習事項と生活が結びついておらず、数学を生かすことがなかなかできない。もっと具体化する必要がある。
目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。(美術)	・作品の見方や製作の構想が広がるように、適切な参考作品(資料)を提示した。また、	・作品制作の経過に合わせて適宜参考資料を提示し、お互いの作品を鑑賞することと絡めながら、見方や感じ方を広げる機会を設けることができた。	・鑑賞においては、自分なりに作品の良さを感じ取る力は育っているが、作者の表現意図等を考える力については機械をより増やし、伸ばしていく必要がある。
教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってより良い校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実につとめること。(道徳)	・C(15)「よりよい学校生活・集団生活の充実」の項目について教科書を使用して学習した。	・ワークシートの記述から、集団としてよりよく過ごすために大切なことをグループで考えることができた。	・授業を通して学んだ価値観(道徳性)を自分自身の生活に生かしていけるように意識させる必要がある。
様々な地域学習を通して、地域の活性化に参画する意欲を育む活動から互助の精神を育成すること。(総合的な学習の時間)	・広尾町に提案したいことについてアンケート調査をし、グループ編成を決め、パソコンや図書、役場担当者へのインタビュー等を通して調べ学習を行った。	・自分たちが将来の広尾町の担い手になることと、何が現実的に必要か、それは実施可能かなどのあらゆる可能性について情報を集め、発表することができた。	・今年はコロナの影響で、事業所に実際に訪問したり、体験したりして調査活動を行うことができなかったのも、次年度はそれができるようになると良い。
男女相互について理解するとともに、共に協力し尊重し合い、充実した生活づくりに参画すること。(特別活動)	・保健師さんや保健体育の先生、養護の先生より道徳や総合学習を通じて、性教育や命の大切さを題材にした教材を活用して学習した。	・性教育の授業後の振り返りシートを活用して、理解したことや考えたことを確認できた。また、読み教材だけでなく、映像や実際の胎児の模型を使って実感できる工夫をした。	・性や命の課題は中学生にとって重要なテーマであり、感染症などの正しい知識を含めて、定期的に今後も継続していく必要がある。

令和２年度 広尾町立広尾中学校 学校経営評価

令和２年度重点教育目標

心豊かな生徒～「中学校の教育活動全体を通して、

主体性と助け合う心を育てる」【互助の精神】

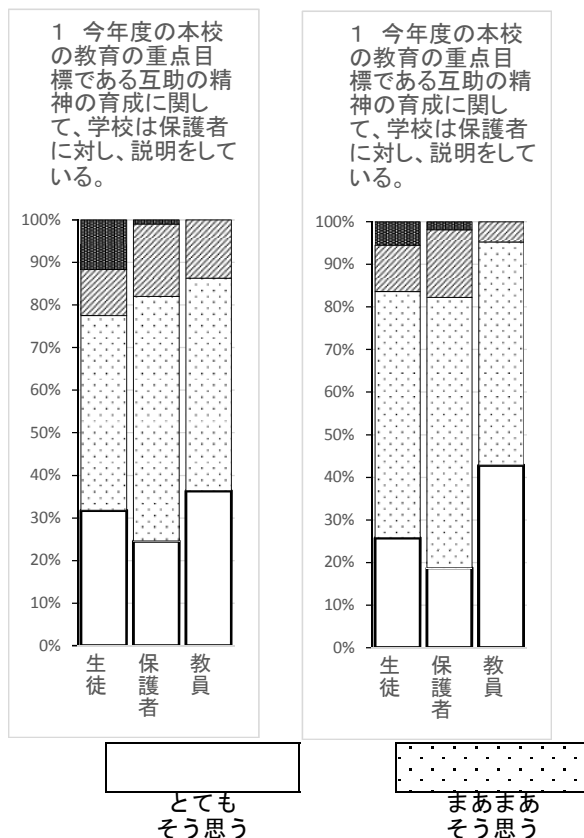
項 目	取 組	評 価
全 体	重点教育目標の具体化に向けて、各教科の取組の観点を明確にする。	年度当初校長から重点単元の提案をし、各教員が具体的な単元を選定した。
	C S 担当者を１名配置し、年間の取組の柱となる各教科の「重点単元」の取りまとめを行う。	教務部から担当者を選定した。 重点単元の取りまとめを行った。
	重点単元の授業が確実に実施されているか、進捗管理を行う。	担当者を中心に、教務部で実施状況を確認した。
	互助の精神に関わって実施された授業や行事を、地域・保護者に積極的に発信する。	学校祭の目標に互助の精神を入れ、制限のある中で保護者等に参観してもらった。
教務部	重点単元の授業時数を、確実に確保する。	教育課程編成時に、重点単元を明確にした。
	道徳の重点目標である「よりよい学校生活、集団生活の充実」の授業を、確実に計画、実施する。	１年生と３年生が１２月、２年生が１月にそれぞれ実施した。
	文化祭の活動の目標の中に「互助の精神」を位置づけ、各活動で取組を進める。	今年は「学校祭」として実施した時に、その目標の中に互助の精神を位置付けて取組んだ。
指導部	学級活動、生徒会活動の目標の中に「互助の精神」を入れる。	生徒会、専門委員会の活動目標に、助け合いに関連付けた内容を取り入れた。
	生徒会活動として、「互助の精神」を育むことを目的とした行事を実施する。	新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。
	環境整備作業の意義の１つとして、「互助の精神」を明確に打ち出す。	新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。
	体育祭の活動の目標の中に「互助の精神」を位置づけ、各活動で取組を進める。	今年は「学校祭」として実施した時に、その目標の中に互助の精神を位置付けて取組んだ。
研修部	重点単元を中心にして研究授業を行い、加えて指導主事を招聘した研修を計画・実施する。	研修部で計画をし、計画通りに実施できた。
	研究授業で生徒の自己評価を実施し、互助の精神に関わってどのような成長がみられるかを検証する。	道徳の授業で実施し、授業を通して互助の精神の高まりを自覚する様子が見られた。

資料2

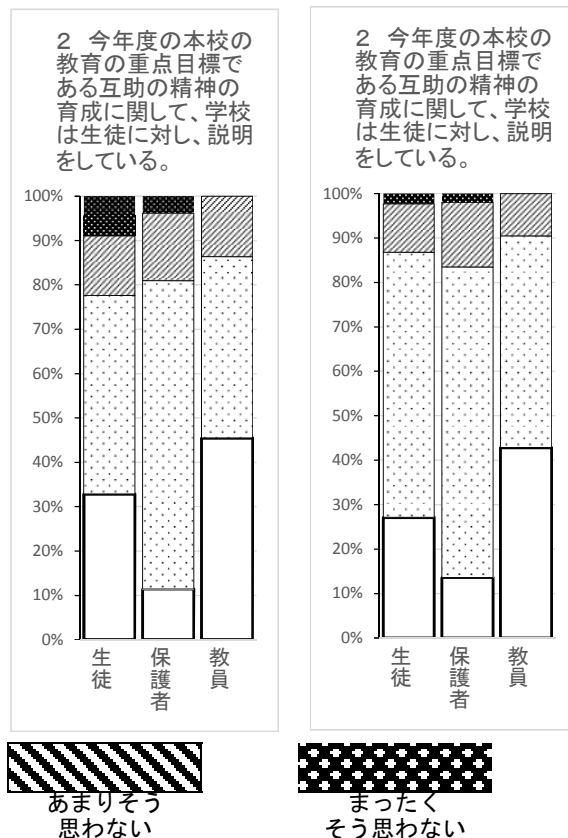
令和2年度 広尾町立広尾中学校

重点目標 「互助の精神の育成」 に 関わる学校評価アンケート結果

8月結果 ⇒ 1月結果



8月結果 ⇒ 1月結果



「互助の精神」保護者への説明		8月結果			
	とても そう 思う	まあ まあ そう 思う	あまり そう 思う	ま った く そう 思 わ な い	
生徒	41	59	14	15	
保護者	26	61	18	1	
教員	8	11	3	0	

「互助の精神」生徒への説明		8月結果			
	とても そう 思う	まあ まあ そう 思う	あまり そう 思う	ま った く そう 思 わ な い	
生徒	44	60	18	12	
保護者	12	73	16	4	
教員	10	9	3	0	

「互助の精神」保護者への説明		1月結果			
	とても そう 思う	まあ まあ そう 思う	あまり そう 思う	ま った く そう 思 わ な い	
生徒	33	74	14	7	
保護者	20	68	17	2	
教員	9	11	1	0	

「互助の精神」生徒への説明		1月結果			
	とても そう 思う	まあ まあ そう 思う	あまり そう 思う	ま った く そう 思 わ な い	
生徒	35	77	14	3	
保護者	14	72	15	2	
教員	9	10	2	0	